

3. 鹿児島（鶴丸）城跡の調査

1) 発掘調査の概要

鹿児島城跡では、表Ⅲ-3に示したように各種開発行為等に先だって発掘調査が実施されており、ここでは、これらの概要について述べていく。

（図Ⅲ-14、表Ⅲ-3参照）

①城山

発掘調査は行われていないが、西南戦争関連遺跡として、平成23・24年度に鹿児島市教育委員会による地形測量調査及び金属探査調査が実施されている。調査は、岩崎谷北側尾根一体で実施され、調査の結果、平成23年度には19箇所の堡塁と2箇所の胸壁、堡塁状遺構が、平成24年度には5箇所の堡塁が確認されている。金属探査調査では、銃弾や葉莢等が発見されている。天然記念物については、「鹿児島市城山公園保全計画」策定時に植生調査が実施されている。

②鹿児島（鶴丸）城本丸跡

鹿児島県教育委員会により、2度の本調査が実施され、平成26年度からは、鹿児島県立埋蔵文化財センターによって石垣保全に伴う確認調査が実施されている。

一次調査は、県歴史資料センター黎明館建設に伴い、昭和53年・54年に実施された。遺構は重複、遺構間の切り合いや、検出された遺構の配置と、現存する絵図、写真の比較検討の結果、明治6年（1873）焼失時のものであることが判明した。鹿児島城本丸は元禄9年（1691）焼失し、その後約13年の歳月を経て再建され明治に至っていることから、この時の本調査で検出された遺構は元禄9年以降から廃城時のものである。このことは出土遺物がほぼ近世中期以降に集中することからも確認される。

橋のうち北御門橋は当初、第七高等学校か鹿児島大学時代に土砂を埋めて架設されたものではないかとの推測がなされていたが、発掘調査の結果、堀の幅部分も鹿児島城から続く地山がそのままであること、石垣もこの区域で終わっていることなどから土橋であったと判断された。さらに、この土橋に埋設されていた暗渠型排水溝は、土橋を突き抜け御厩の方向に走っていることも判明している。

門は「御楼門」、「北御門」、「唐御門」、「塀重門」、「御中門」、「桜之門」がある。このうち御楼門は礎石が残っている。この礎石には焼失時の柱痕があり、91cm×73cmを測ることから鏡柱はこの大きさであったと推定される。

県歴史資料センター黎明館建設に伴う発掘調査時に出土した遺物は膨大で、現在、県立埋蔵文化財センターに収蔵保管されている。主な出土陶磁器には、薩摩焼を主に肥前系、琉球焼があり、その器種は多様である。この他にも、瓦類・釘・かんざし・鏡・飾金具・刀装具・キセル・古銭等の出土が見られた。なお、薩摩焼には家紋入りの豎野系の製品が出土している。軒丸瓦の中には、桐文や牡丹文のものも見られる。

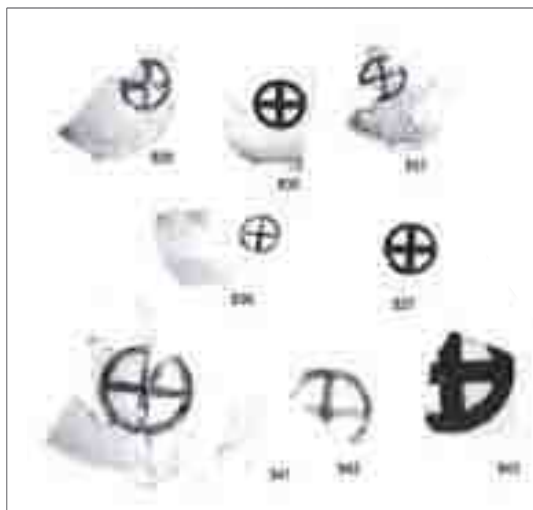
二次調査は石垣修復に伴う御角櫓周辺部の発掘調査である。

平成26年度からは、石垣保全に伴う発掘調査が実施されており、平成27年度の調査において能舞台に連なる橋掛かりと呼ばれる施設の一部が検出されている。

(本丸の遺構)



(本丸の主な遺物)

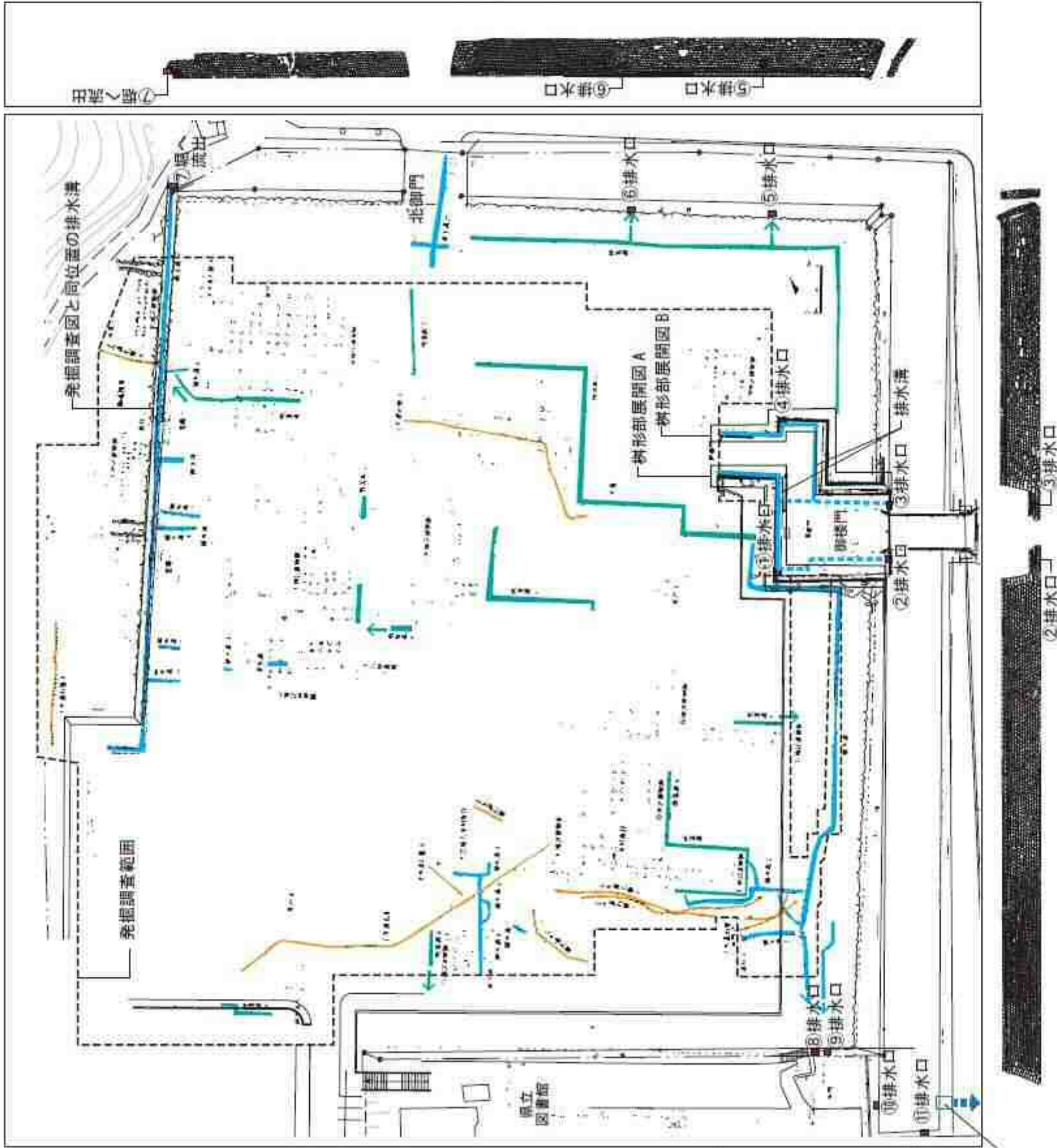


轡十字の家紋が入った陶器類



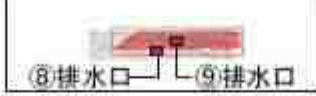
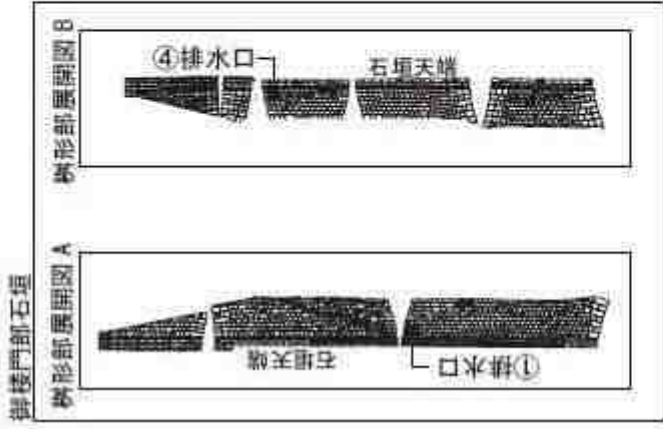
かんざしと鏡

(出典:「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(26)鹿児島(鶴丸)城本丸跡」)



凡例

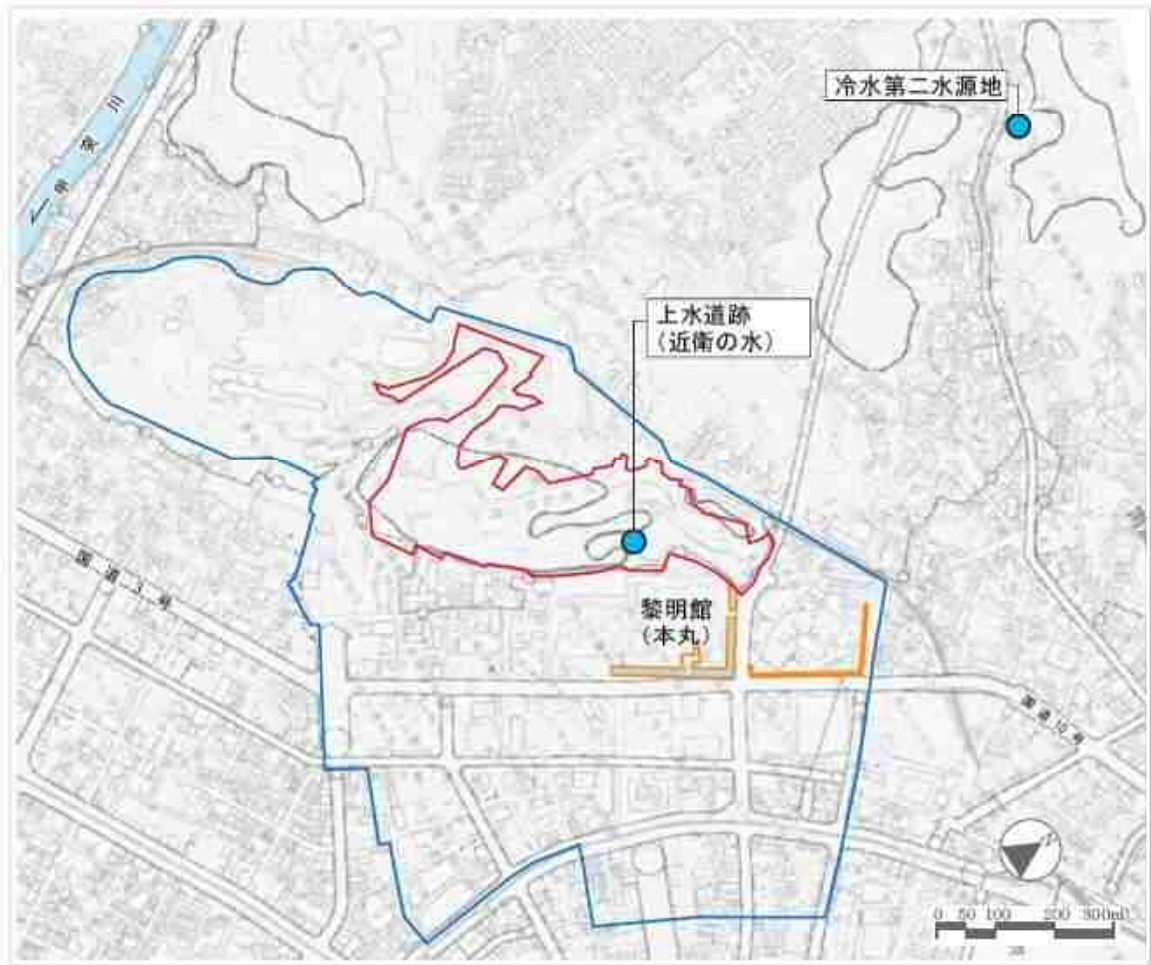
記号	内容
黄色線	上水道石管
青線	雨排水
緑線	排水溝
紫線	排水口 (1)~(9)
---	発掘調査範囲



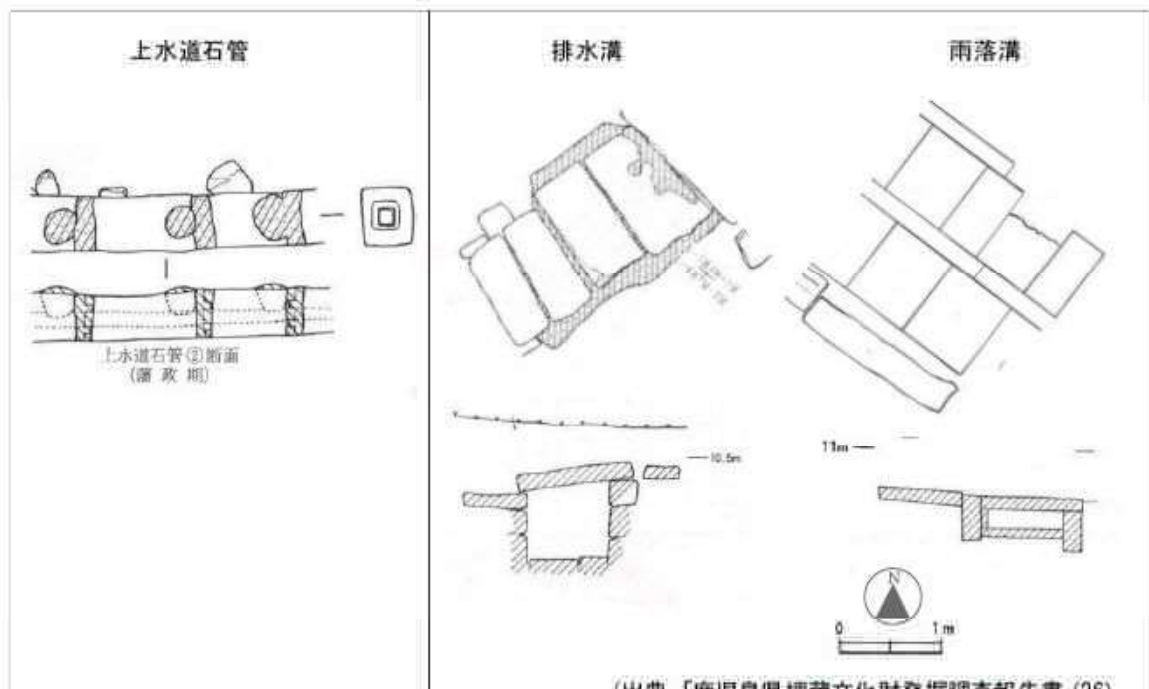
堀の水の排水位置
多くの絵図から確認でき、
現況でも樹が確認される。



図III-8 本丸上水・排水遺構平面図及び石垣展開図
南側石垣展開図



図Ⅲ-9 水源の位置



(出典:「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(26) 鹿児島(鶴丸)城本丸跡」)

図Ⅲ-10 上水・排水遺構発掘調査図

上水・排水遺構発掘調査写真



上水道石管



上水道石管断面



排水溝



雨落溝 1



雨落溝 2

(出典:「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(26) 鹿児島(鶴丸)城本丸跡」)

③鹿児島（鶴丸）城二之丸跡

鹿児島県教育委員会により、県立図書館・県立視聴覚センター建設に伴い昭和52・53年に発掘調査が実施された。調査の結果、濠が本丸石垣に沿うかたちで長さ70m、幅13m、深さ2.5mが確認され、昭和52年8月24日に開かれた県文化財保護審議会の史跡埋蔵部会で、濠は埋め戻して現状保存すること。濠にかかる建物は、その部分だけ西側にずらして濠は完全に保存することが答申され、関係機関との取扱い協議の結果、答申どおり実施されることとなった。

この他に、建物跡が23箇所確認され、成尾常矩指図に記された「クラ」や「御稽古所」、「御台所」との照合がなされた。調査の結果、遺構の切り合い等から3期確認されたと報告書は述べている。

鹿児島市教育委員会によって鹿児島市立美術館建設に伴い昭和58年に発掘調査が実施された。調査の結果、二之丸殿舎と推定される建物跡や、これに先行する排水溝が検出されている。排水溝は、二之丸以前にあったとされる御下屋敷との関係性が考えられるが、断定できなかった。

平成11年に実施されたG地点の発掘調査では、水道石管が検出された。この石管は、黒漆喰で密着され、桐木の上に枕木状に並べられた基礎石の上に収まっていた。

（二之丸の遺構）



（出典：「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（5）
鹿児島（鶴丸）城二之丸跡」）



（出典：「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（55）
鹿児島城二之丸跡（遺構編）」）

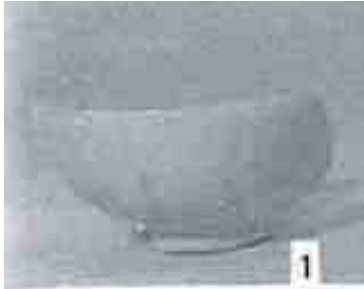


（出典：「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（55）
鹿児島城二之丸跡（遺構編）」）



（出典：「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（55）
鹿児島城二之丸跡（遺構編）」）

(二之丸の主な遺物)



薩摩焼の碗



肥前系の碗



琉球焼の胴長壺



関西系の急須

(出典:「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(60) 鹿児島城二之丸跡(遺物編)」)

④造士館・演武館跡

鹿児島市教育委員会により、中央公園地下駐車場建設に伴い発掘調査が実施された。当時の建物の位置関係を知る手掛かりとなる重要な遺構が確認されている。例えば、排水溝2(図Ⅲ-14参照)は、『鹿児島県史料・旧記雑録追録六』の建物配置図にある「底水道」のひとつと一致する。当地は、明治期に裁判所としての土地利用がなされるが、報告書では、造士館の構造物を基礎として再利用されていた可能性も指摘されている。

(造士館・演武館の遺構)



(出典:「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(13) 造士館・演武館跡」)

(造士館・演武館の主な遺物)



肥前系（染付磁器）・薩摩磁器（右上）



薩摩焼

(出典：「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）造士館・演武館跡」)

⑤垂水・宮之城島津家屋敷跡

鹿児島県立埋蔵文化財センターにより、かごしま県民交流センター建設に伴い発掘調査が実施された。旧県庁舎の建設等により多くが消滅していたが、調査地中央部分において、石垣を有する溝状遺構が検出され（図Ⅲ-14参照）、これが垂水島津家と宮之城島津家の屋敷境を示す遺構である可能性が極めて高いことがわかった。

出土遺物では、轡十字の家紋が記された豎野系薩摩焼が出土している。これは、鹿児島城本丸跡や松尾城跡などの島津家縁の土地などで出土しており、当地が島津分家の屋敷であったことを裏付ける資料として位置付けられる。また、陶磁器の中には文字の施された墨書陶磁器も出土し、その中でも、宮之城島津家屋敷跡出土の「御看経所」は読経する場所を指すと思われる。また、白薩摩や高級肥前磁器などが出土し、上級武士層の使用していたものに加え、屋敷内で働いていた人々の様相も伝える資料として貴重な資料となっている。

(垂水・宮之城島津家屋敷の主な遺物)



出土品集合写真

(出典：「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（48）垂水・宮之城島津家屋敷跡」)

⑥名山遺跡

昭和59年度から63年度に4次にわたる発掘調査と平成13年度に5次調査が実施されている。5次調査を受けて、1次調査において検出されていた石組排水溝について再考が行われ、間知石の面のノミ調整が非常に細やかで丁寧であることから、下水道（大下水）であったとされた。なお、この5次調査のCトレンチで検出された遺構は、正徳3年の大火以前にあった喜入氏の屋敷建物関連とされている。

（名山遺跡の遺構）



（名山遺跡の主な遺物）



薩摩焼



薩摩焼

（出典：「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（38）名山遺跡」）

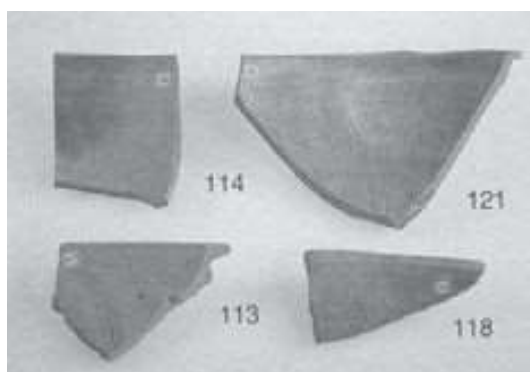
⑦琉球館跡

長田中学校の校庭整備事業に伴い、平成14年に発掘調査が実施された。調査の結果、赤焼大型花鉢、締焼壺、赤瓦等が出土し、植木鉢、大壺、瓶等の嗜好品的なものの琉球焼は、県内でも他に出土例があるが、日常生活に密着した摺鉢、赤瓦、が出土していること、出土遺物の中で、中国との交易を示す清朝磁器の割合が高いことなどの特徴が指摘された。

(琉球館の遺構)



(琉球館の主な遺物)

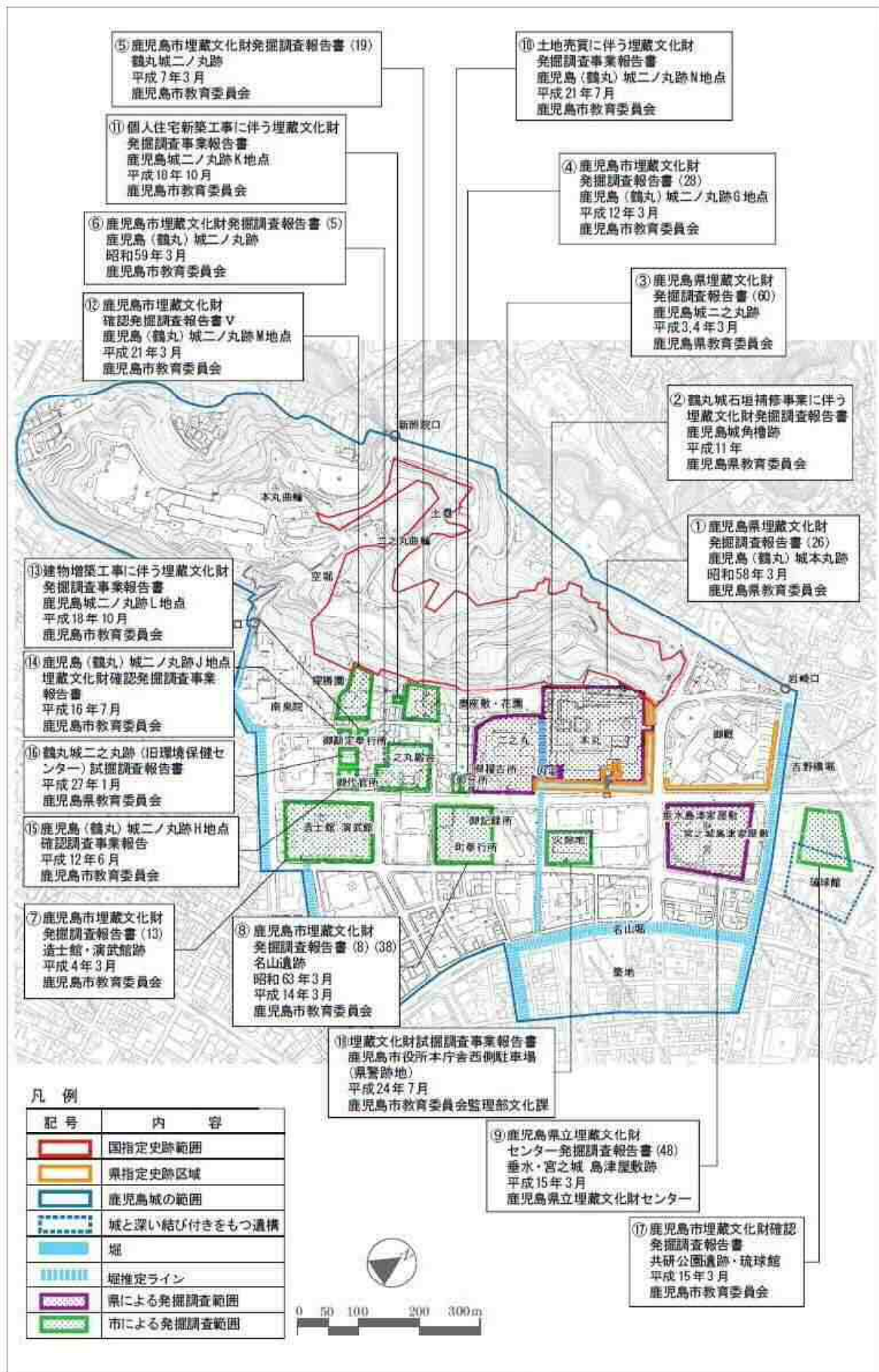


琉球摺鉢



清朝磁器

(出典:「鹿児島市埋蔵文化財確認発掘調査報告書 共研公園遺跡・琉球館」)



図Ⅲ-11 発掘調査位置図

表Ⅲ-3 発掘調査一覧表 (1)

番号	場所 (遺跡名)	調査日	調査目的 (原因)	調査 の 種類	調査面積 (㎡)	主な調査結果		備考
						遺 構	遺 物	
①	本丸	S53. 10. 23 ～ S55. 12. 25	黎明館 建設	本 調 査	21, 175 ㎡	建物跡、雨落溝 排水溝、池、井戸 上水道石管、水槽 その他水利施設 橋、門、雪隠 階段	薩摩焼 肥前系陶磁器 琉球焼 (薩摩焼を主体 に碗、皿等)	江戸時代中期以降のもの (元禄9年)
②	本丸 (御角櫓)	H11. 7. 19 ～ H11. 8. 5	石垣修復 工事		400 ㎡	石柱列 排水施設 建物跡	瓦	
③	二之丸 (B 地点)	S52. 4. 25 ～ S53. 1. 31	県立図書館 建設		15, 000 ㎡	建物跡、社殿跡 門跡、濠、 石管水道、井戸 排水路、塀跡、 石垣、通路、 その他	陶器、土師器 瓦器、瓦 石製品 ガラス製品 洗面具、髪止め 鉄製品、磁器	本丸南側の 内堀が確認 された。 水道石管は 当時として はめずらしい 耐圧式で ある。
④	二之丸 (G 地点)	H11. 2. 12 ～ H11. 3. 19	宗教道場の 建設		260 ㎡	石垣基礎石列 水道管列 布基礎列 布基礎 基礎石組列 雨落溝、瓦 池、池石組列	薩摩焼、土師器 染付磁器 瓦類、釉薬磁器 青磁、白磁 その他陶磁器 各種	水道石管は 当時として はめずらしい 耐圧式で ある。
⑤	二之丸 (F 地点)	H6. 7. 25 ～ H6. 9. 9	近代文学館・ メルヘン館 建設	確認 調 査	350 ㎡	暗渠形石組 排水溝 石列	—	遺構は藩政 時代のもの と思われる が不明。
⑥	二之丸 (C 地点)	S58. 6. 27 ～ S58. 10. 15	市立美術館 建設	本 調 査	5, 600 ㎡	建物跡 上水道石管、 石垣排水溝、 水利施設	薩摩焼、青磁 肥前系陶磁器、 白磁、土師器 瓦類、釈迦仏 立像等	二之丸殿社 と考えられ る遺構があ る。(江戸 時代後期)
⑦	造士館 演武館	H2. 7. 2 ～ H2. 8. 20	中央公園地下 駐車場建設		3, 300 ㎡	建物跡、排水溝 水槽、水道石管	染付磁器 薩摩焼	暗渠型の排 水溝が確認 されている。
⑧	名山遺跡	S59. 9. 26 ～ S59. 10. 11	屋内運動場 建設	確認 調 査 ・ 本 調 査	502 ㎡	石組排水溝	肥前系陶磁器 薩摩焼 瓦類	はしご胴木 が置かれた 石組排水溝 が確認され ている。
		H13. 7. 27 ～ H13. 8. 10	校庭整備		45 ㎡	石組排水溝 基礎石列 はしご胴木	薩摩焼、磁器 染付陶器、瓦 下駄、木製品	
⑨	垂水・ 宮之城 島津屋敷	H11. 5. 10 ～ H12. 7. 27	かごしま県民 交流センター 建設	本 調 査	3, 350 ㎡	屋敷境溝 根石 土坑	磁器、陶器 土器、瓦 瓦質土器、木器 金属器、古銭	武家屋敷跡 が確認され ている。

表Ⅲ-3 発掘調査一覧表 (2)

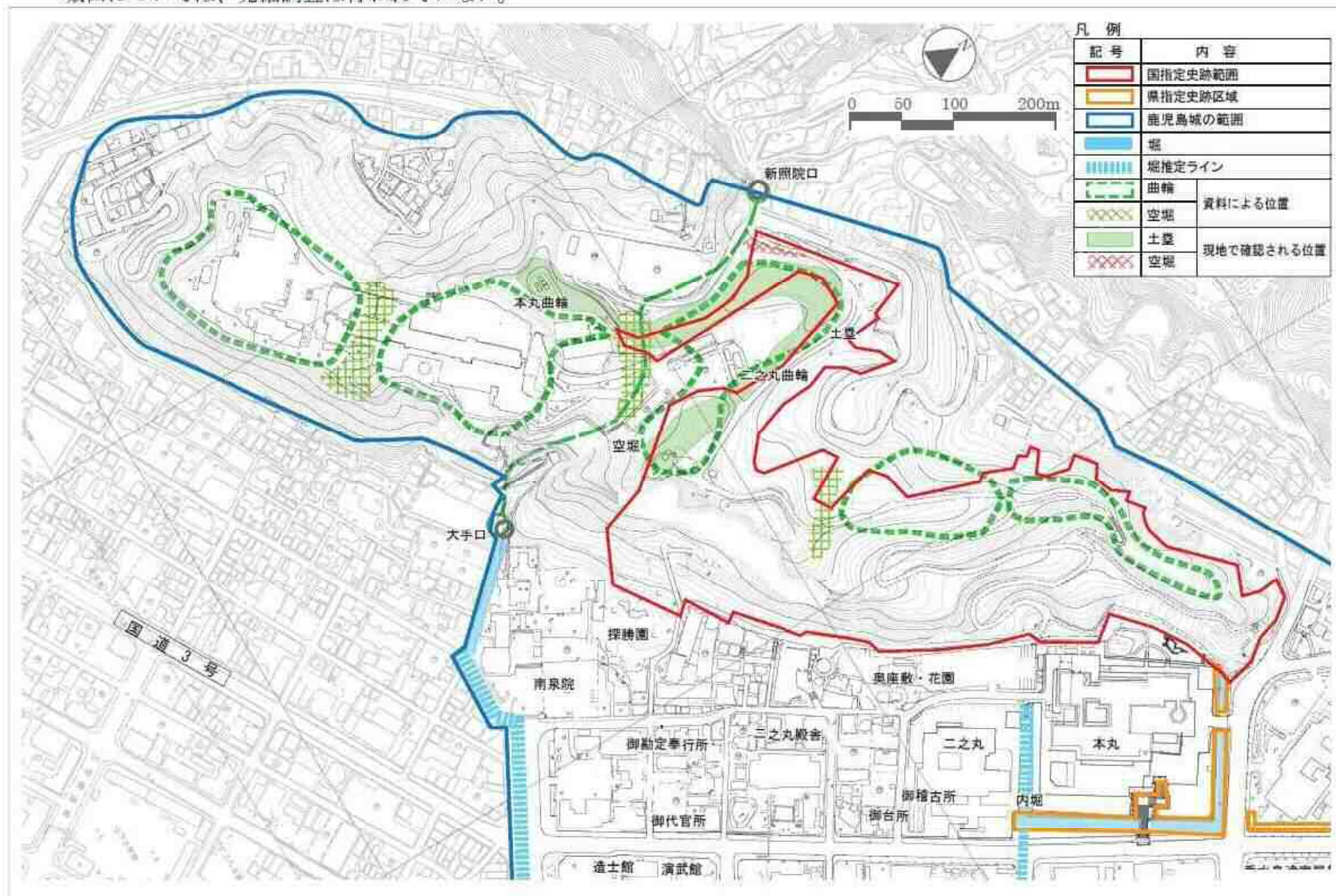
番号	場所 (遺構名)	調査日	調査目的 (原因)	調査 の 種類	調査面積 (㎡)	主な調査結果		備考	
						遺構	遺物		
⑩	二之丸 (N地点)	H21.5.21 ～ H21.6.9	土地売買	確認 調 査	11.2㎡	叩き状遺構 側溝状遺構 礫集中部 縁石状遺構	瓦、薩摩焼 青磁器、染付 中国陶器 古銭等	・多くの関連 遺構、遺物 が確認され た。	
⑪	二之丸 (K地点)	H18.7.24 ～ H18.7.26	個人住宅 新築		6.0㎡	—	—	・近現代の 建物基礎は 確認された。	
⑫	二之丸 (M地点)	H19.10.2 ～ H19.10.9	共同住宅 建設		50.0㎡	石垣	薩摩焼、 染付磁器他 素焼・瓦類他	・遺構は藩政 時代のもの と思われる が不明。	
⑬	二之丸 (L地点)	H18.8.23 ～ H18.8.25	建物増築		6.0㎡	土坑	土器、薩摩焼 移人陶磁器 土師器、染付 中国陶器	・鹿児島城に 繋がる遺構、 遺物はない。	
⑭	二之丸 (J地点)	H16.6.59	集合住宅建設		3.0㎡	—	陶磁器	・鹿児島城に 繋がる遺構、 遺物はない。	
⑮	二之丸 (H地点)	H25.5.24 ～ H25.5.25	マンション 建設		5.6㎡	—	薩摩焼、土師器 瓦、成川土器 黒曜石	・近世二之丸 跡の生活面 はすでに消 滅している。	
⑯	二之丸 (南西端)	H27.1.7	建物基礎撤去 及び汚染土壌 入れ替え		9.9㎡	(遺構内埋土)	薩摩焼 平瓦 染付碗	・近世の遺物 遺構の埋土 が確認され た。	
⑰	琉球館	H14.7.22 ～ H14.8.6	校庭整備		50㎡	石垣塀基礎 布基礎列 排水溝	陶磁器 赤瓦 赤焼・締焼 清朝磁器	・中国との交 易を示す遺 物が多い。	
⑱	市役所本庁 西側駐車場	H24.7.11、 H24.7.18 ～ H24.7.20	市役所本庁舎 西別館建設		試掘 調 査	18㎡	—	近現代の瓦・ 陶磁器・ガラ ス	・近世以前の 遺物・遺構 は残存せず。

(出典)

- ・鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(26)鹿児島(鶴丸)城本丸跡
- ・鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(60)鹿児島城二之丸跡
- ・鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)鹿児島(鶴丸)城二ノ丸跡
- ・鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)造士館・演武館跡
- ・鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(48)垂水・宮之城 島津家屋敷跡等の調査報告書より編纂

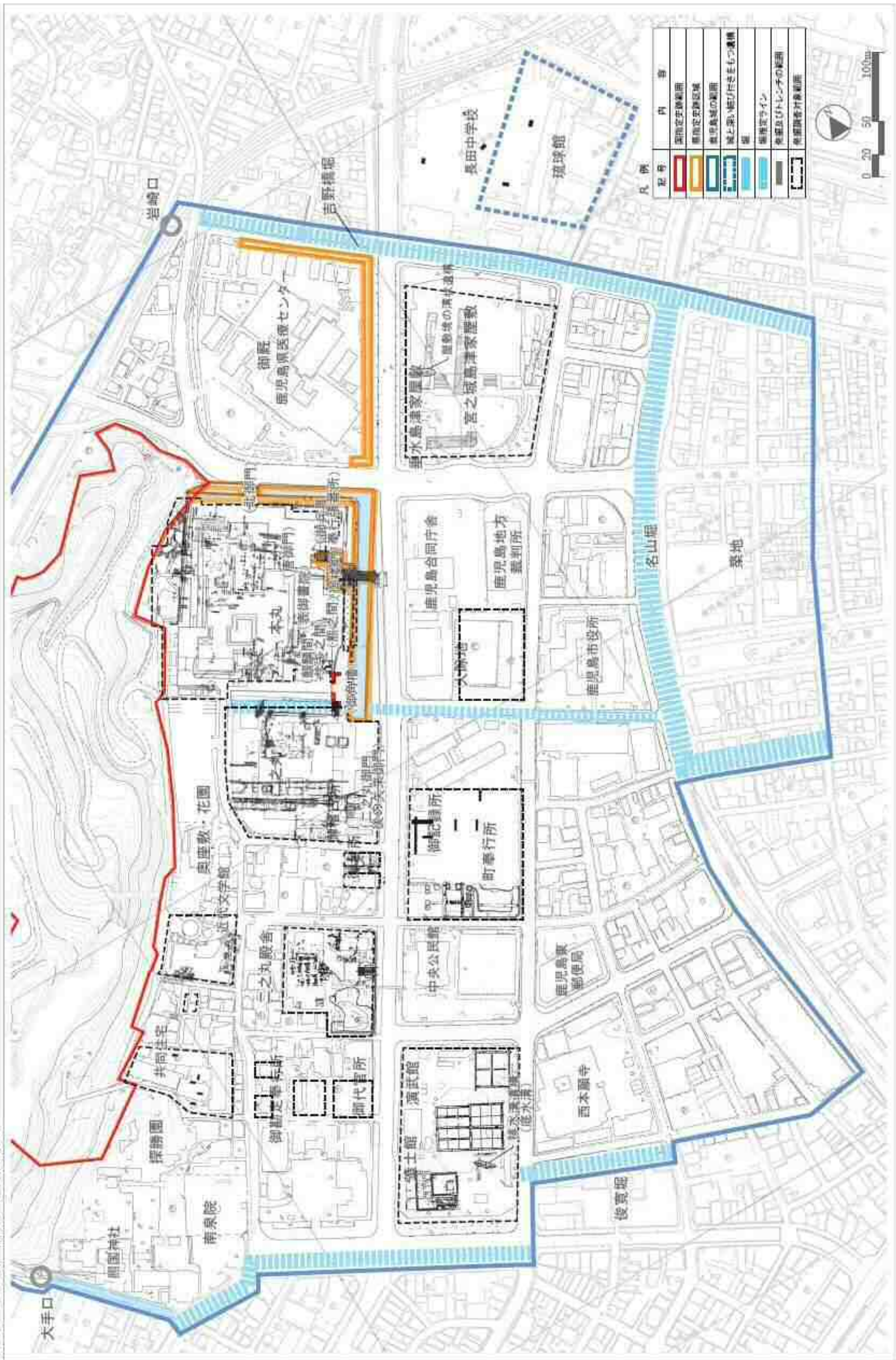
(城山)

城山については、発掘調査は行われていない。



図Ⅲ-12 関連資料と現況図の重ね合わせ

(本丸・二之丸・御殿、その他周辺)

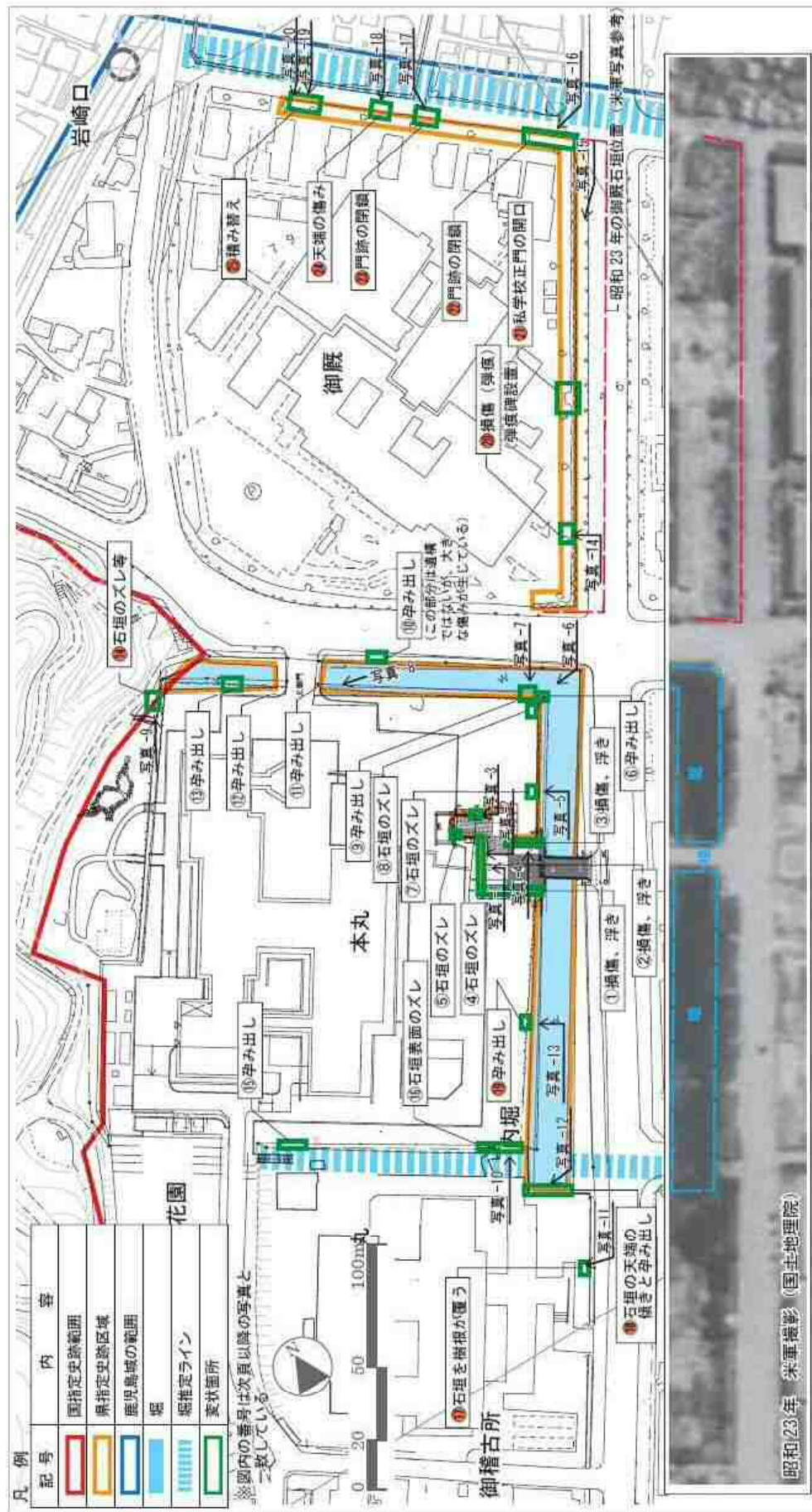


図五-13 美郷調査位置図(部分)

2) 石垣調査のまとめ

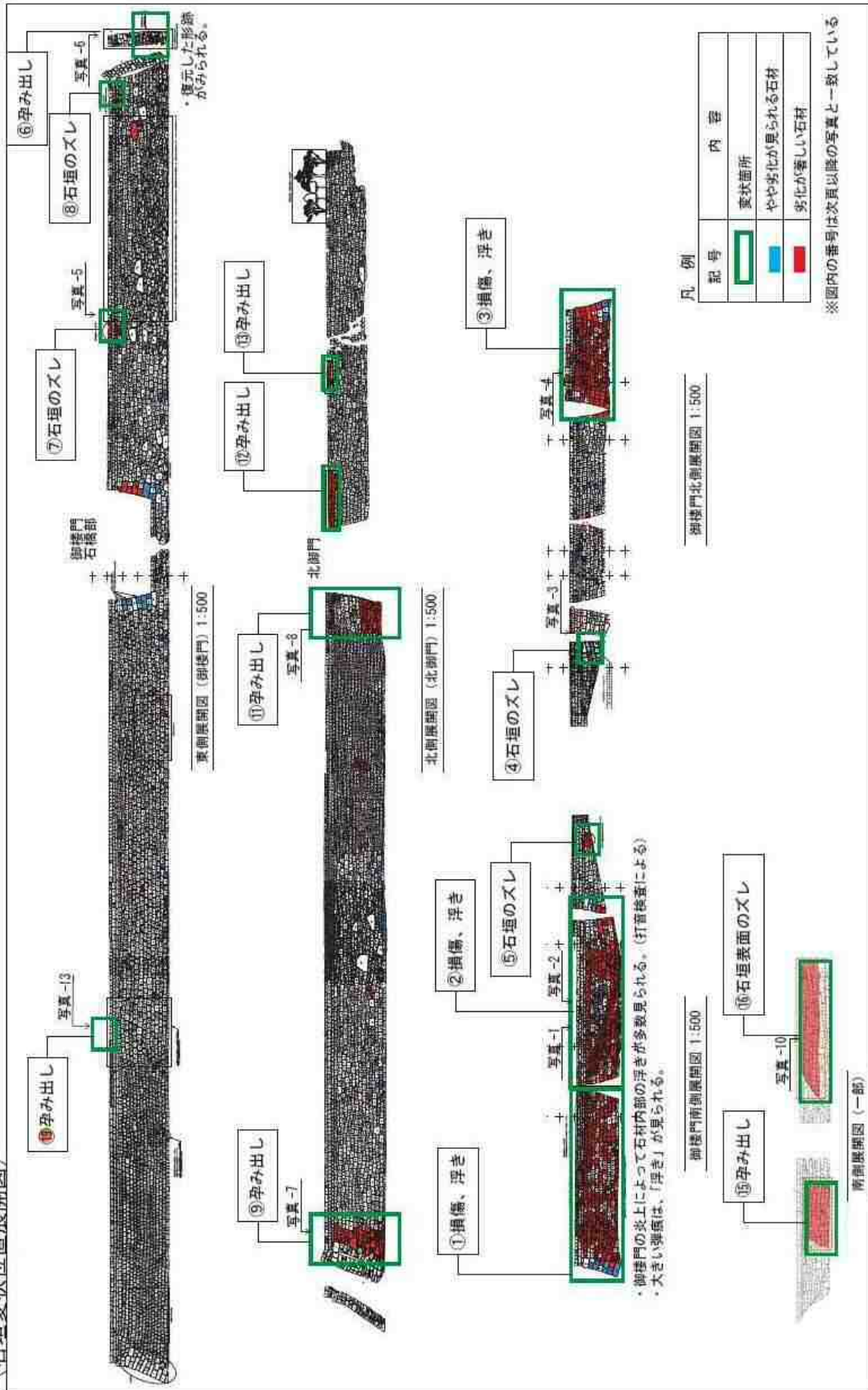
①本丸・二之丸・御殿の石垣の傷み

石垣の傷み箇所を下図及び次頁図に示す。傷み箇所、内容は「鶴丸城石垣現況基礎調査業務委託」を参照する。ただし、下図の位置番号①、②、③、④、⑤の10箇所は本業務の調査で追記したものである。



図Ⅲ-14 石垣変状位置平面図

(石垣変状位置展開図)



図Ⅱ-15 石垣変状位置展開図



写真-1 右側下部に次下及びび孕みが生じている



写真-2 石垣の強度

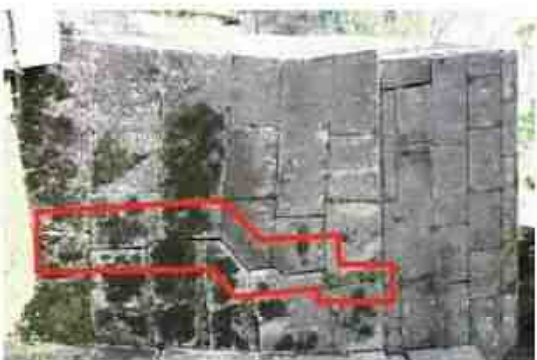


写真-3 目地の開き

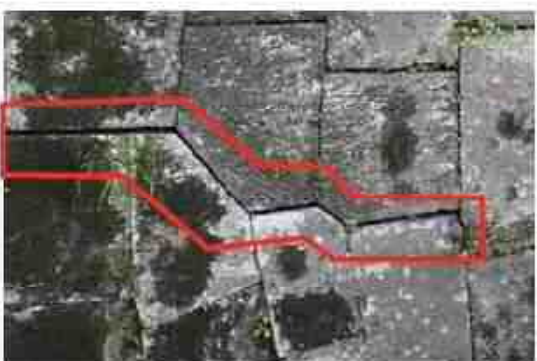


写真-3 目地の開きの拡大



写真-4 火災時の熱で角がとれ丸くなっている



写真-5 孕み出し



写真-6 孕み出し



写真-7 打込み部分が孕んでいる



写真-8 下部が孕んでいる
(写真は「鶴丸城石垣現況基礎調査業務委託」のものを使用)



写真-9 巨木が石垣上にみられる



写真-10 石垣表面のズレがみられる



写真-11 石垣天端の傾きと孕み



写真-12 石垣を樹根が覆う



写真-13 孕み出し



写真-14 弾痕碑と弾痕



写真-15 私学校跡（県指定史跡）
数メートル西側に移設、積み直された



写真-16 門跡の閉鎖



写真-17 門跡の閉鎖

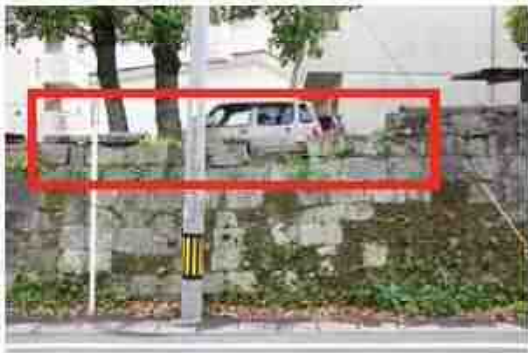


写真-18 天端の傷み



写真-20 積み替え部拡大



写真-19 ゴミ置き場設置による積み替え

3) 植生調査のまとめ

①城山

城山における現況植生については、鹿児島市の「城山公園植生等現況調査」(平成25年3月)によると、シロヤマシダ、シロヤマゼンマイ、ヤマゴシニヤク、サツマイノモリ等の初記載地として知られるばかりでなく、胸高直径が1mを超えるクスノキやスダジイの巨木が点在し、バクチノキ、バリバリノキ、ショウベンノキ等の暖帯性の樹木からなる原生的な森林によって覆われており、学術的価値が高いため国の天然記念物に指定されている。城山の現況植生を下図に示す。



(出典:「城山公園植生等現況調査」平成25年 鹿児島市 一部加筆)

図Ⅲ-16 城山の現況植生平面図

②本丸・二之丸・御殿

本丸・二之丸ともヒラドツツジ及びソメイヨシノで周囲を囲われており、植樹帯にクスノキやアコウ、クロガネモチ等の巨木が点在する。また、黎明館前の「麒麟の間」跡には礎石のあった箇所にツツジが植えられ、平面表示が試みられている。

本丸・二之丸・御殿の現況植生を下図に示す。

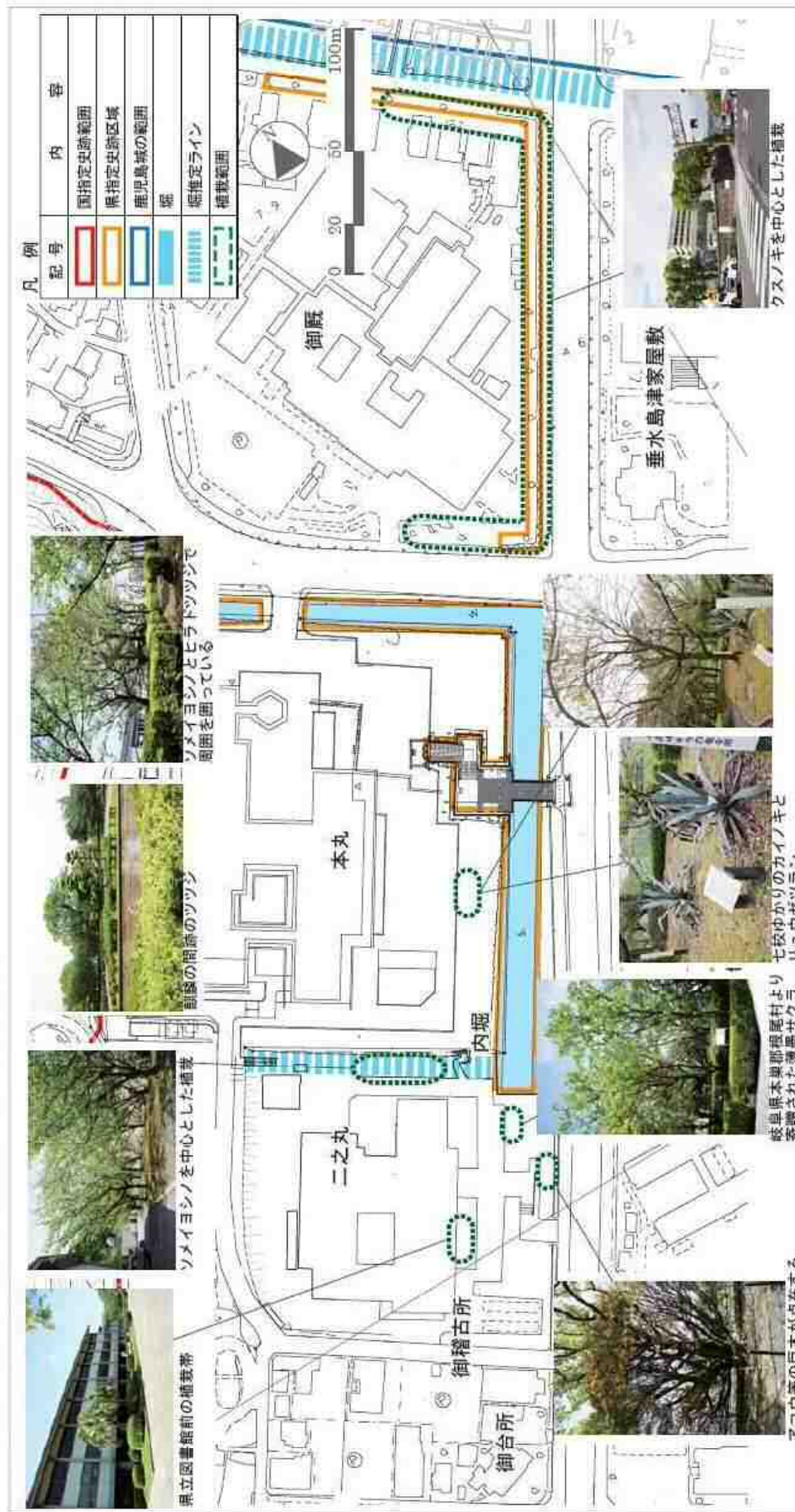


図 III-17 本丸・二之丸・御殿の現況植生平面図